



2層吹き抜けの展示室では高天井のLEDシステムライトと高演色調光スポットライトにリニューアル。展示壁面トップの間接照明が彩りを添えている

北海道立三岸好太郎美術館

MIGISHI KOTARO MUSEUM OF ART, HOKKAIDO

既存照明器具をLED化し 広々とした展示空間を実現

三岸好太郎美術館は1967年、札幌出身の画家・三岸好太郎(1903-1934)の作品220点が遺族から寄贈されたのをきっかけに、全国に先駆けた個人美術館として設立。三岸作品を収集・保存・研究、展示を行うとともに、展示室でコンサートを開催するなど多彩な活動で親しまれてきた。現在の建物は1983年に札幌市中央区北1条から移転し、新館として建設されたもの。緑に包まれた白い建物は、吹き抜け空間や大きなガラス窓、中庭に仕つらえた水盤など、三岸好太郎が晩年に構想したアトリエからイメージを得、岡田

新一設計事務所によって設計された。2018年の改修工事では、これまで資料室だった空間を展示室に改修するとともに、照明のLED化が行われた。特に吹き抜けでは壁から突き出たアーム式の蛍光灯と白熱灯の混合照明器具を、システムライトと高演色調光スポットライトに変更。高い天井と広々とした展示空間を実現するとともに、展示壁面トップに間接照明を配し、変化と彩りを添えている。美術館としては、今後、開館50年を機に、三岸好太郎の進取の精神に学びながら、若い芸術家の紹介や道内外の美術館と連携した企画の開催など、活動をさらに広げて行く意向だという。



北海道立三岸好太郎美術館

■展示室改修工事

所在地 北海道札幌市中央区北2条西15丁目
 施工主 北海道
 設備設計 株式会社高木設計事務所
 施工 島津電設株式会社、株式会社エイト設計
 電気工事 島津電設株式会社
 リニューアル竣工 2018年2月



2階展示室にも高演色調光スポットライトが用いられている



LEDシステムライトが2階の木質フロアを優しく照らす



階段の踏み板もスポットライトで照射

主な設備

- 高演色調光スポットライト
- システムライト(灯具ユニット内蔵タイプ)
- 間接照明器具

ウェブサイトでも
ご覧いただけます

